

《担当者名》西村ユミ（非）[yumin@tmu.ac.jp]

【概要】

看護研究において、現象学的な思考法が求められる根拠、およびこの思考法が、医療者や患者、およびその家族の「経験」の理解にいかなる手がかりを与えうるのかを考察する。
そのため、現代思想における「現象学」（主に、フッサールとメルロ=ポンティ）の歴史的な位置づけを理解するとともに、現象学と言われる仕事の幾つかの特徴について検討する。併せて、これらの特徴と具体的な経験とを往復しつつ、現象学的研究（記述）がいかなる作業に取り組むことであるのかを理解する。先行研究を概観して、具体的な研究の進め方、論述（記述）のスタイル、研究における現象学的な態度、方法論としての現象学的研究の位置づけなどについて考える。

【学修目標】

1. 現象学的研究の思想の枠組み、及び求められる態度を理解できる。
2. 現象学的研究の例をもとに、具体的な研究方法を学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	看護研究と現象学	・現象学の基本的な考え方と歴史的な位置づけを学ぶ。 ・看護研究において、現象学が求められる理由について考える。	西村
3) 4	現象学的態度・記述のスタイルとは？	・看護研究において、現象学的態度の意味を考える。 ・現象学的記述のスタイルと方法を学ぶ。	西村
5) 6	現象学的記述に触れる（メルロ=ポンティ『知覚の現象学』）	・哲学書を読み、現象学的記述を理解する。	西村
7) 8	現象学的研究の具体例	・現象学的研究において、現象学がどのように導入あるいは参照されているのかを検討する。	西村

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

議論への参加（60％）と課題レポート（40％）で評価する。

【教科書】

松葉祥一・西村ユミ『現象学的看護研究』医学書院、2014年
その他、適時コピーを配布する。

【参考書】

1. メルロ=ポンティ『知覚の現象学1』みすず書房、1967
2. メルロ=ポンティ『知覚の現象学2』みすず書房、1974年
3. 西村ユミ『語りかける身体』講談社、2018年
4. 西村ユミ『急性期病院のエスノグラフィー』新曜社、2020年

【学修の準備】

テキストの第3部、第1～3章を事前に読んでおく。

課題レポートとして、授業前に、現象学的研究に関する論文を1編読み、その論文において現象学的研究が必要とされた理由を論じること。